

**基礎学力の定着に向けた目標設定・授業改善・評価の一体的取組の推進
～「高校生のための学びの基礎診断」等の効果的な利活用～**



**令和元年10月23日（水）
石川県立松任高等学校**

- 1 本校の取組について (6分)

- 2 取組に対する成果について (6分)
※当日スライドのみ

- 3 「学びの基礎診断」等の効果的な利活用 (8分)

平成30年度 事業概念図

調査研究の趣旨

産業のグローバル化、急速な技術革新により求められる人材が変化。
 →自ら課題を見つけ、その課題を解決することができる人材の育成が急務。
 →基礎的な知識の習得と理解、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度の醸成が必要。
 →特に、基礎学力の確実な育成、学習意欲の喚起が重要。
 →実践研究校において、「基礎学力の定着に向けた学習改善」を目指した体制づくりや取組の改善に必要な、PDCAサイクルの確立を目指す。

調査研究の目的

- ①基礎学力の定着に必要な学習指導体制を確立する。
- ②学習意欲を喚起する学習指導の在り方を検討する。
- ③学習改善を図るためのPDCAサイクルを構築する。

調査研究事業検討会議

大学教授、
近隣中学校長、
民間有識者、
PTA など。

評価、
指導・助言

<実践研究校> 石川県立松任高等学校

基礎学力定着推進委員会

教科会 課会 担当者会

基礎学力
測定・分析 P.T.

生活習慣改善・
家庭学習習慣化 P.T.

小中高連携 P.T.

プロジェクトA、
プロジェクトB

基礎学力はくさん

- 指導法（学習指導、生活指導）の研究
- 学び直し教材の研究
- 全国学力・学習状況調査の結果分析や、フィードバックの取組の研修

授業交流

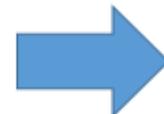
白山市立松任中学校、
白山市立光野中学校、
白山市立松任小学校等

- ・聞く力、書く力、説明する力の育成法
- ・見せ方、褒め方
- ・生活習慣の指導
- ・全国学力・学習状況調査の結果分析や、フィードバックの手法

I. 平成29年度の成果と課題の把握及び 研究計画・指導計画の作成

- 学力スタンダード（指導計画書）の作成による、基礎学力についての共通理解と授業改善
- 平成29年度の基礎学力、生活習慣、学習習慣の現状把握。
（基礎力診断テスト・アンケート等の実施・分析）
- 現状を踏まえた研究計画・指導計画の作成

P



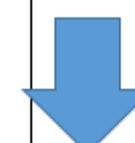
D

☆予定している成果

- ◎校内の学習指導改善体制の確立
- ◎教員の授業力向上
- ◎生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着
- ◎生徒の家庭学習の習慣化
- ◎学校の活性化
- ◎地域ぐるみの指導体制の構築
- ◎教員・生徒のICT機器活用力の向上

II. 基礎学力の定着に向けた学習改善の取組

- 学習指導改善のための取組
 - ・基礎学力定着推進委員会の定期的な開催
 - ・ICT機器活用による授業改善
 - ・校内研修会の実施
 - ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践
 - ・先進校視察
 - ・Classiの活用
 - ・プロジェクトA、Bによる指導プラン作成
- 家庭学習の習慣化に向けた仕組みの構築
- 「基礎学力はくさん」による地域連携の取組



C

III. 基礎学力の定着度の測定及び分析

- 基礎力診断テストの継続的な実施と分析
- 試行調査の実施
- 「基礎学力はくさん」による分析
- 調査研究事業検討会議の開催

IV. 取組結果に基づく指導改善

- 研究成果と改善点の取りまとめ
- 指導改善の推進
- PDCAサイクルの確立と成果の普及
- 発達段階に応じたきめ細やかな対応

A



1 本校の取組 (1 2 項目の概要について)

(1) 基礎学力定着推進委員会の定期的開催

- ・ 校長からの指導、各担当者からの実践報告、事業の分析と計画の見直し等を実施

(2) ICT機器活用による授業改善

- ・ 生徒の学ぶ意欲を喚起し、改善内容を共有

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業実践

- ・ 学習システム「STUDYNET」(シャープビジネスソリューション)を使用した双方向型の授業の導入
- ・ ペア、グループ学習等を積極的に取り入れ、主体的・協働的に学習できる授業を実践

(2)(3)についての分析方法

・ 定期的な生徒による授業アンケートや授業改善実施後の形成的アンケートで常に分析、情報共有し、その内容を全職員に広報し、タイムリーな授業改善をすすめる

平成30年度 ペア・グループ学習 活用授業アンケート (生徒対象)
 石川県立松任高等学校
 教務課にて担当

学年 _____ 教科・科目 _____ 日付 月 日 () 曜日 _____

1 次の質問項目に対して該当する番号に○をつけてください。
 ① : 当てはまる ② : 大体当てはまる ③ : あまり当てはまらない ④ : 全く当てはまらない

回答欄

(1) ペア・グループ学習を活用することで、授業が楽しくなった。 ① ② ③ ④

(2) ペア・グループ学習を活用することで、授業に積極的に取り組めるようになった。 ① ② ③ ④

(3) ペア・グループ学習を活用することで、授業の理解が深まった。 ① ② ③ ④

(4) ペア・グループ学習を活用することで、発表・発言が増えた。 ① ② ③ ④

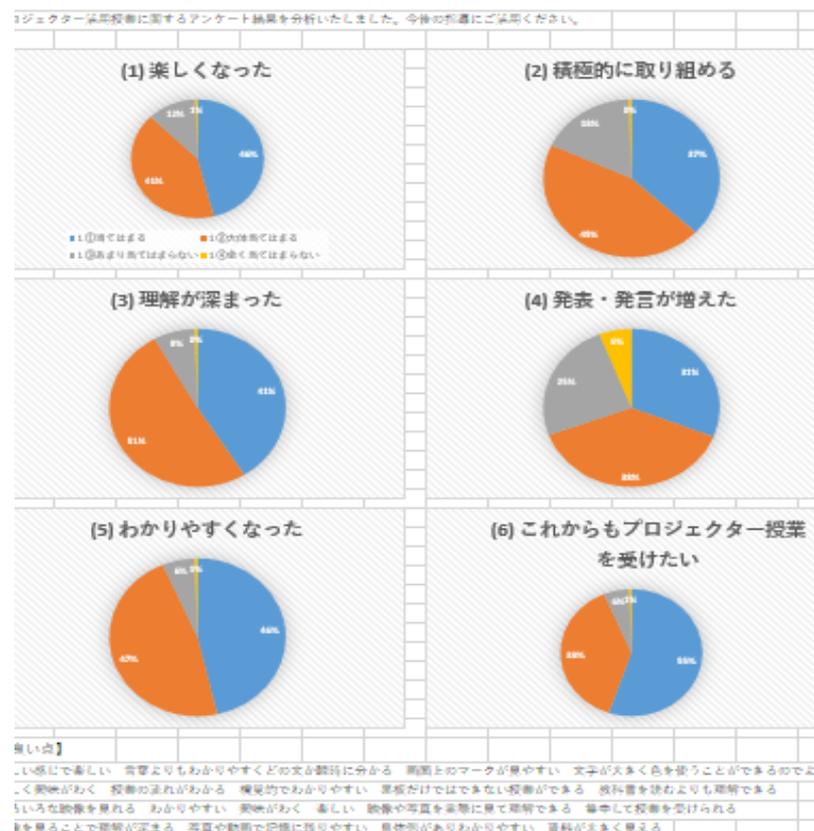
(5) ペア・グループ学習を活用することで、わかりやすくなった。 ① ② ③ ④

(6) これからも ペア・グループ学習を活用する授業を受けたい。 ① ② ③ ④

2 ペア・グループ学習を活用する授業の良い点を書いてください。

3 ペア・グループ学習を活用する授業の良くない点を書いてください。

4 その他自由な意見を書いてください。



主体的・対話的で深い学びアンケート

アンケート分析結果広報

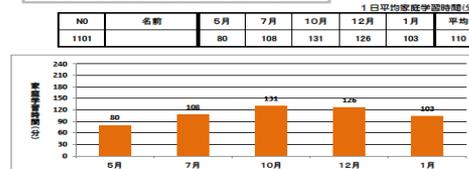
(4) 家庭学習の習慣化に向けた仕組みの構築

・家庭学習等調査票による家庭学習時間や生活リズムの定期的実施とその結果分析、個人推移票による生徒の振り返り及びH R Aによる個人面談や保護者懇談会での指導

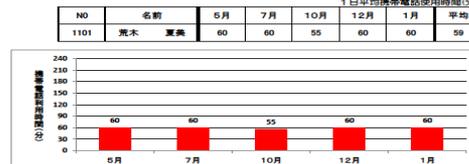
・「家庭学習強化期間」の保護者へのメール配信、「基礎学力だより」の配布、ホームページへの掲載、Classi活用、校内放送、ポスター掲示、P T Aとの連携

・振り返りシートや教科面談シートを活用し教科担当者との面談も実施

2017/3/9 教務課
家庭学習時間等調査 個人推移表



携帯電話使用時間調査 個人推移表



※ 未記入・未検出の場合もが表示されます。

○家庭学習時間を増やす具体的な方策等について

○携帯電話使用時間についての感想と改善点

感想

改善点

**生徒個人推移票
で振り返り**

基礎学力だより H29 第3号

発行日：平成29年9月29日
発行所：石川県立松任高等学校

1 いよいよ「第3回定期試験」が始まります・・・家庭学習の習慣化を!

第3回定期試験は、10月10日(火)～10月13日(金)に実施されます。みなさん一人一人が、日頃の「学習→授業→夜習」の学習サイクルを確実に、**家庭学習の習慣化**(1年は2時間、2年は3時間、3年は4時間)を固め、基礎学力を定着させてください。また、1、2年生は、「Classi」の学習記録に各自の家庭学習を必ず入力し、生活リズムを振り返り、3年生は家庭学習等調査票に記入し、個人推移票で自己分析を行ってください。みなさんが納得できる結果を獲得できるように、職員みんなが、応援しています。

「定期試験受検上の注意」(留意)

- 定期試験は、絶対に欠席してはいけません。
- 10分を越えた遅刻は、受験できません。
- 途中退席はできません。
- 不正行為は絶対にしない。携帯電話は持込不可。
- 靴の中は空にしない。
- 座席は名簿順に着席しない。

2 文部科学省指定校の研究経過について

今年度の文科省実践研究については、第1回の調査研究事業検討会議で構成委員の先生方や石川県教育委員会事務局の方々に、成果と課題を報告し、指導助言をいただきました。現在の状況は、家庭学習時間が増加し、7月段階の平均家庭学習時間は、1日1時間38分まで増加しました。また、「基礎力診断テスト」等の模試の結果も、平均、成績層とも上昇しています。しかし一部の生徒については、なかなか家庭学習の習慣化が図られず、模試の「Dゾーン」からの脱出ができていません。本校を職員で尽力していますので、生徒のみなさんも、一層努力し、どうしても解決できない生徒は、担任等に相談し、早期の解決を図って下さい。

3 「高校生の履修単位としての心構えとは?」(株式会社ベネッセコーポレーションより)

- 主体的な学びを促す・・・時間を自主的に、基礎から段階的に理解
- 子どもの理解を促す・・・疑問に対してはいろいろな視点(先生・仲間、先生)と、正確な情報を求める
- 課題を達成して楽しむの楽しさを知り・・・子どもと一緒に考える、興味・夢・学びたい内容
- 学校の成績を高める・・・もともと理解できる程度は子どもが得意な基礎、教科の成績を再考
- 子どもの未来をまもる・・・日頃の行儀をまもり、少しでも理解を促した時、不安そうする時

4 今後の主な日曜(教務課関係)の予定です。

10月3日(火) 「基礎力診断テスト」結果分析報告会
10月10日(火)～13日(金) 第3回定期試験 10月28日(土)1、2年「実力診断テスト」

**校内放送と
基礎学力だより配布**

(5) 「学カスタンダード」による基礎学力の共通理解と指導改善のP D C Aサイクル

・学カスタンダード（指導計画書）を作成、検討し、学習指導要領の各内容項目に対して、どこまで深く教え育むのかという到達目標を明確化

・教科会で共通理解を図り、習熟度別指導の工夫や授業改善に活用

・学習改善を図るためのP D C Aサイクルを構築し、評価と改善を継続

基礎 応用 発展 手立て 到達度

石川県立松任高等学校 平成28年度実施（学カスタンダード）1年普通科（基礎） 教科：数学 科目：数学Ⅰ

内 容	<基礎>レベル	具体的な到達目標	<発展>レベル	指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)	月別	実施	授業で把握した 目標到達度
(1)数と式 く式 (7)式の展開と因数分解	<ul style="list-style-type: none"> 多項式の次数を述べたり、整理することができる。 分配の法則を利用して展開し整理することができる。 因数分解ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ある文字に着目して整理することができる 3乗の2乗を展開できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫をして展開ができる。 重畳を利用して因数分解ができる。 低次の文字で整理して因数分解ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校での学習内容が定着しているかどうか、練習問題などで確認をし、不十分な生徒には手立てをする。〈基・標〉 【学習活動】繰り返し学習により、定着を図る。〈基〉グループ活動を通して、工夫する点を話し合い見つける。〈発〉 確認テストを行い、定着具合を確認する。〈基・標・発〉 	4月	4月中旬 4月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 分配の法則を利用して展開することは、ほぼ全員定着した。 因数分解の(1)は60%の定着率であった。 たすき掛けの因数分解については、長期的な振り返り学習が必要である。
(1)一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めたり一次不等式や連立不等式の解法に活用したりすること。	<ul style="list-style-type: none"> 不等式の種類を捉え、数直線上で表すことができる。 不等式の性質を理解し、一次不等式を解くことができる。 一次不等式や連立不等式の解を求めることができる。 簡単な絶対値の方程式・不等式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大小関係を不等式で表すことができる。 一次不等式を満たす最小の自然数について考察することができる。 一次不等式を満たす最小の自然数nを求めよ。 簡単な絶対値の方程式・不等式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一次不等式を満たす最小の自然数nを求めよ。 絶対値の性質を確認し方程式や不等式を解く手立てとする。〈基・標・発〉 確認テストを行い、定着具合を確認する。〈基・標・発〉 絶対値の方程式・不等式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を用い視覚的に確認できるようにする。〈基・標〉 一次方程式の解法をもとに、不等号の向きに注意して一次不等式を解く。〈基〉 数直線を用いて、最小の自然数を探る。〈発〉 絶対値の性質を確認し方程式や不等式を解く手立てとする。〈基・標・発〉 確認テストを行い、定着具合を確認する。〈基・標・発〉 ＜習得資質・能力＞ 展開や因数分解、不等式などを解くなどの学習活動を通して、課題発見力、論理的思考力、自発的活動力を身につける。 	5月	5月中旬 5月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 移項が理解できていない生徒が一部いるので、個人指導を行った。 不等式の(1)は60%の定着率であった。 分数の不等式の(1)は30%の定着率であった。 連立不等式の(2)は50%の定着率であった。 絶対値の方程式は70%の定着率であった。

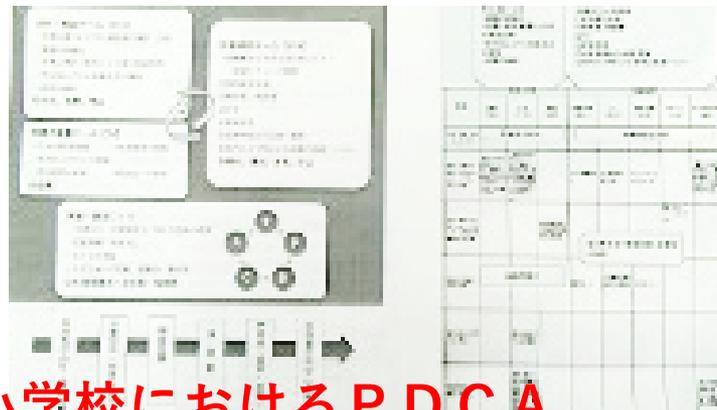
本校数学科の「学カスタンダード」例

(6) 「基礎学力はくさん」による地域連携の取組

- ・地域の小中学校の授業参観、本校の授業公開により学習・生活の両面において小中高の指導の連携
- ・大学との授業交流による高大連携により基礎学力定着のための指導改善について情報交換および研究
- ・小中学校で行われている「全国学力・学習状況調査」の分析や授業改善のP D C Aサイクル等を参考にし、学力向上に向けたP D C Aサイクルの構築について組織的・継続的に推進できる体制づくり



中学校におけるP D C A



小学校におけるP D C A

(7) 基礎力診断テスト・実力診断テストの実施

基礎学力定着の現状把握するために、主に、基礎力診断テスト及び実力診断テストを活用している。

4月 基礎力診断テスト

新入生の状況把握 義務教育範囲の定着確認 高校生活の目標づくり

6月 実力診断テスト

記述力の状況把握 夏季休業前の進路目標と進路可能性の把握
夏季休業計画の立案

9月 基礎力診断テスト

基礎学力定着の成長・変化の確認 学習力・学習習慣等の確認

11月 実力診断テスト

進路目標の設定 記述力の状況把握

1月 実力診断テスト

1年間の振り返りと0学期スタート 進路目標への到達度の確認

生徒の進路目標が多様なため、基礎学力定着と進路実現を同時に目指したテスト計画となっている。

(7) 基礎力診断テスト・実力診断テストの実施

• 2019年度版

「高校生のための学びの基礎診断」認定ツール利用予定表				
年度		令和元年度		
月	時期	1年	2年	3年
4月	中旬	基礎力診断テスト	基礎力診断テスト	基礎力診断テスト
6月	中旬	実力診断テスト	実力診断テスト	実力判定テスト
	下旬	実用数学技能検定（希望者）	実用数学技能検定（希望者）	実用数学技能検定（希望者）
7月	月上旬			進研記述模試（希望者）
9月	中旬	基礎力診断テスト	基礎力診断テスト	基礎力判定テスト（希望者）
	下旬	実用数学技能検定（希望者）	実用数学技能検定（希望者）	実用数学技能検定（希望者）
10月	下旬		進研総合学力テスト（希望者）	
11月	中旬	実用数学技能検定（希望者）	実用数学技能検定（希望者）	実用数学技能検定（希望者）
1月	中旬	進研総合学力テスト（成績上位）	進研総合学力テスト（成績上位）	
		実力診断テスト（成績下位）	実力診断テスト（成績下位）	
3月	月上旬	実用数学技能検定（希望者）	実用数学技能検定（希望者）	実用数学技能検定（希望者）

(8) P D C A サイクル の確立と成果の普及

・「基礎力診断テスト」
等のアセスメントごとに、
各教科でP D C Aシート
等を活用し、結果分析と
計画の見直し

・それらの分析結果や今
後の指導方法について、
基礎学力定着推進委員会
や教科、分掌、および全
教員で情報共有

P D C Aシート 30年 5月21日(月) 数学科主任 担当者 免田 陸宏

アセスメント名	3年生「基礎力診断テスト(4月)」教科分野別成績(数学)
試験・調査名	

C: 結果分析・課題等

- ・数Ⅰ・Aの分野は他校と比較しても得点率がやや高い
- ・数Ⅱの範囲は劣っている → 普通科は数Ⅱの復習ができていない また、総合学科は数Ⅱの後半をまだ学んでいない
- ・場合の数と確率の得点率が低い → 文章を読み、理解する力が不十分



A: 改善のねらい

- (1) 数Ⅱの範囲においても、課題等によく復習させる
- (2) 日頃から文章を読んで答える問題を与えていく
- (3) 基本問題はさらに高い得点率を目指す



P, D: 具体的計画・授業のできる対策等

- (1) 長期課題に、数Ⅰ・Aだけでなく、Ⅱも盛り込む(生徒の進路希望等、実状に合わせる)
- (2) (3) 授業の最初に、思考力テストを実施する(1番から8番は基礎計算問題、9、10番は思考力、読解力が必要となる問題構成に変更)
- (2) 定期試験に思考力が必要な問題を盛り込む

その他・特記事項

- ・ICT機器やペアワーク、グループワークを積極的に導入
- ・思考力だけでなく、コミュニケーション能力や言語能力の育成も図る

(9) Classi (クラウドサービス) の活用

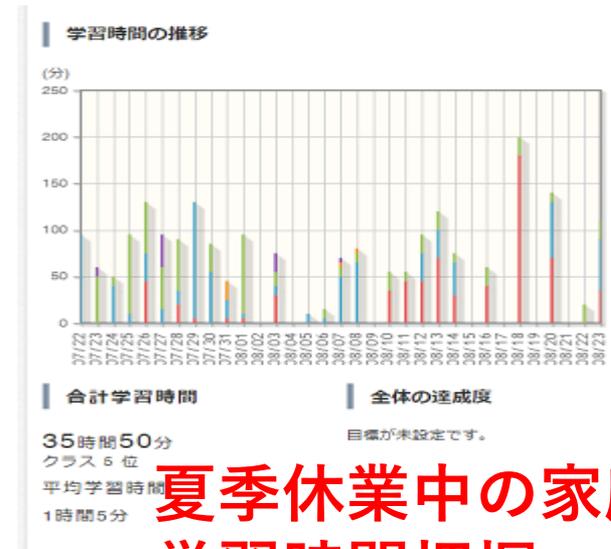
- ・生徒の家庭学習時間、生活リズムの把握、コミュニケーション機能による個別指導、Webドリル、学習動画等による基礎学力定着
- ・長期休業中における課題配信、生徒の学習状況把握および個別指導、課題テスト等への活用



啓蒙ポスター



学習動画の活用



夏季休業中の家庭
学習時間把握

(10) プロジェクト A、B による指導方法の標準化

- プロジェクト A を定期的に開催し、授業規律の確保、効果的な指導方法、適切な評価方法を学校として標準化

- プロジェクト B では、3 年間を見据えたキャリア教育計画を編成したマップを作成し、R1 より実践

- 授業規律アンケートを定期的に実施し、その結果を全職員で情報共有し、指導の改善に活用

学習規律チェックシート①

H		番氏名		4月	
★今月の自分を振り返って評価してください。A：できている B：だいたいできている C：できていない					
No	分類	項目	説明	評価 A B C	
1	準備	ベル着	ベルの鳴り始めに座っていますか？		
2		忘れ物	忘れ物をせず授業に臨んでいますか？		
3		予習・復習	指示された予習・復習・宿題をしていますか？		
4	姿勢	寝ない	俯寝りせずに授業に取り組んでいますか？		
5		伏せない	机に伏せずに授業に取り組んでいますか？		
6		傾かない	機を向いたり、後ろを向いたりせずに授業に集中していますか？		
7	服装	シャツ	シャツは360°入れていますか？		
8		ネクタイ・リボン	第1ボタンを留めネクタイ・リボンを付けていますか？		
9		ズボン・スカート	ズボンを下げずにはいていますか？ スカートを曲げずにはいていますか？		
10	意識	私語	授業中、関係のない話をせず集中していますか？		
11		積極性	発言をしたり、問いかけに答えたり積極的に授業に参加していますか？		
12		提出物	締切りを守って提出物を出していますか？		
13	進路実現	挨拶	自分から元気に挨拶をしていますか？		
14		資格・検定	資格・検定に向けて計画的に取り組んでいますか？		
15		目標	進路実現の目標を持ち、近づこうと努力していますか？		

授業規律アンケート

学習規律

進路実現は日々の積み重ね！ 今日1日を無駄にしていますか？

準備	姿勢	服装	意識
ベル着	寝ない	シャツ	私語
忘れ物	伏せない	ネクタイ・リボン	積極性
予習・復習	傾かない	スカート	提出物

(11) 「高校生のための学びの基礎診断」の「試行調査」を実施

- ・事前の校内研修会をした後、「試行調査」を実施
- ・C B T方式や、P B T方式、タブレット方式等によるテストを体験し、新傾向テストにふれた生徒の学びの意識の変化
- ・「学びの総合調査」モニター調査（株式会社ベネッセコーポレーション）も受験し、「思考力・判断力・表現力」を問う新しい形式の問題を体験

(12) 「調査研究事業検討会議」の開催

- ・地元の金沢大学、金城大学、近隣の中学校、企業等の専門家や有識者に、本事業に対して専門的な見地から、指導、助言、評価、進捗状況の管理・監督を依頼
- ・調査研究事業検討会議での指導、助言を、すぐに校内で共有し、各科、分掌、担当でフィードバック

測定及び分析から見えた成果と課題

【成果】

- (1) 基礎学力定着推進委員会で各教科、分掌の取り組みの研究や情報共有を行うことにより、組織的な取組体制が構築され、テストやアンケート結果の数値として成果が表れた。
- (2) 家庭学習の習慣化の取り組みを充実させることにより、家庭学習時間の増加がみられ、予習・授業・復習、提出物等への生徒の意識が高まった。
- (3) 学校全体でICT機器活用やAL型へ授業改善を進めたため、生徒の授業評価も上がり、興味・関心や協働学習への意識が高まった。

【課題】

- (1) 新学習指導要領における資質・能力（三つの柱）の育成に向けての指導方法、評価規準やそのための三年間の指導計画については研究中である。
- (2) 一部の生徒は、資質・能力を含めた基礎学力がまだ定着していないので、その対策として、さらなる授業改善を進める必要がある。
- (3) 「高校生のための学びの基礎診断」に向けて、地元の小中学校と「基礎学力はくさん」において、さらに連携した研究を進める必要がある。

調査研究事業の取り組みにより学校、生徒がどう変わったのか

【学校・教員】

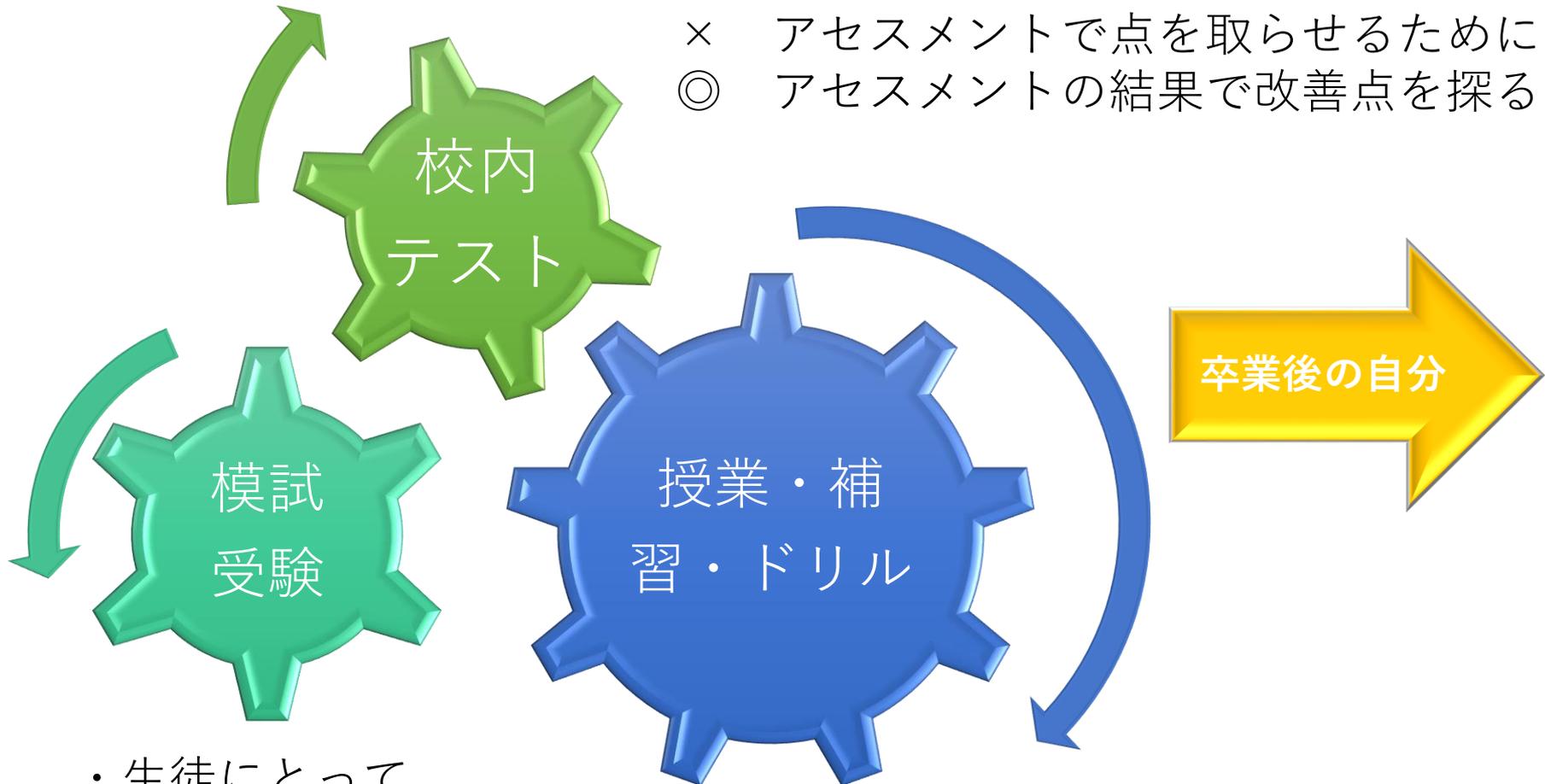
- (1) 基礎学力定着を目指すため、すべての教員が学校組織の中で、それぞれの立場を認識し、組織の一員として積極的な取り組みを行えるようになった。
- (2) 生徒と教員の信頼関係が確立され、授業改善、課題作成、試験問題作問、個人指導などを、計画的に実践できるようになってきた。
- (3) プロジェクター、P C、i P a d、デジタル教科書、ペア・グループ学習などを、すべての年齢層の教員が実践するようになり、授業改善が進んでいる。

【生徒】

- (1) かなりの生徒が、授業や家庭学習の重要性を認識し、自己の基礎学力向上のために努力できるようになってきた。
- (2) 学習習慣を身に付け、基礎学力の定着が進むにつれ、主体的に学習に取り組む生徒や、自己肯定感を持つ生徒が増えて来た。
- (3) 授業中の発表・質疑応答、放課後の質問、自習室での自習、模試の積極的受験、模試結果の振り返りなど、これまで本校では見られなかった生徒の活動が行われるようになった。

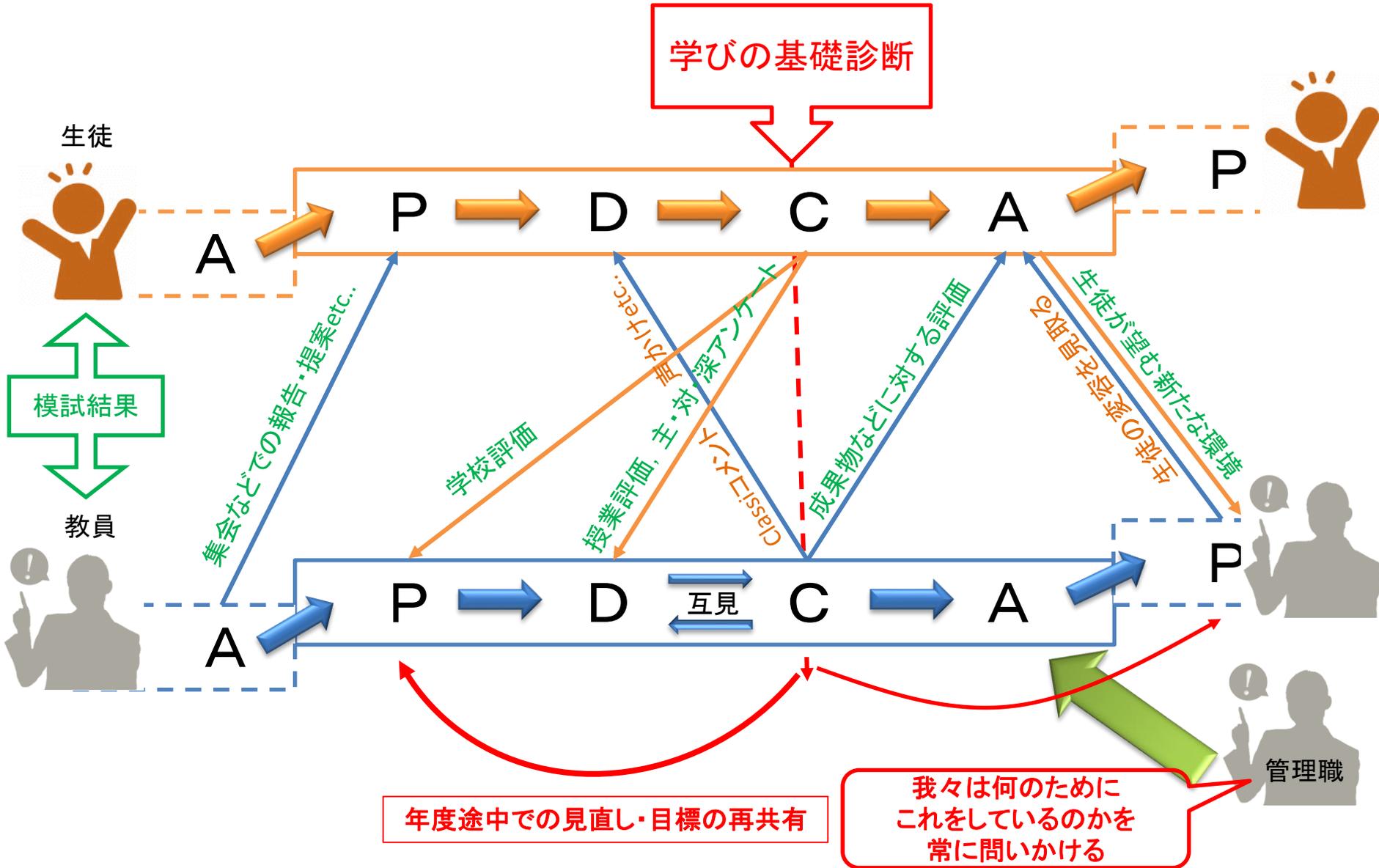
3 「学びの基礎診断」等の効果的な利活用について

- ・先生にとって
 - × アセスメントで点を取らせるために
 - ◎ アセスメントの結果で改善点を探る



- ・生徒にとって
 - × テストは良い点をとらなければならない
 - ◎ テストでの結果が自分の何とつながるのか

2018年9月時点でのPDCA図。



「学びの基礎診断」と新しい時代に必要な資質・能力

	全員対象	希望者対象
4月	基礎力診断テスト 	
5月	 	
6月	実力診断テスト 	
7月		総合学力テスト 
8月	 	
9月	基礎力診断テスト 	
10月		総合学力テスト 
11月	 	
12月		
1月	実力診断テスト(+英語スピーキングテスト) 	総合学力テスト (+英語スピーキングテスト) 
2月		
3月	 	

(例) 9月基礎力診断テスト一連の動き

	日程	One week トライアル	テスト対策	授業・補習
7月	1学期最終日	冊子を配る		
	夏休み補習	普通科 + D3生徒対象	Classiでの課題配信 メッセージ配信	7月進研復習プリント、 授業ノート、事前ドリル での横断学習
8月	夏休み登校日	①提出日 (確認、解答配布)		
9月	2学期初日	②提出日 (確認、助言・返却)	校内課題テストで 対策問題出題	
	土曜補習	解説・解き直し + α 学習	課題テストの解説 One weekの復習	7月補習の復習 重点項目の提示
	基礎力テスト 当日	③提出日 (自主学習確認)	答案を問題冊子に転 記・自己採点	
10月	結果送付後	振り返りドリル GT分析報告会		授業内で復習 定着をはかる

GT 成績分析報告会（集会） → 教室掲示・保護者通信

9月・基礎力診断テストの結果を受けて



個人成績表を見ながら
書き込みをする

10月3日
GT成績分析報告会②

今年度の2年生はちがう!
と言わせたい★★

9月9日(土)に実施した2年2回基礎力診断テストの結果を全員と共有し、
更なる学力向上に向けて「第2回GT成績分析報告会」が行われました。

1 成績UP! GTZ上昇!! のうには学習力向上アリ!

基礎力診断テストの結果の個々の表紙に「UP!」はいつありましたが、GTZが上昇した生徒は18人
いました。空室さんもたくさんはめてくれました!! 中でも何をほめてくれたか皆さんに伝えたところ、
それは、成績簿のGTZとGTZ上昇の差が大きいこと、22Hの皆さんは、特によく頑張ってくれて、
クラス別成績発表では、平均学習時間トライアル組が組内各1位!! 2組は各1位!! を大勢2組の平均GTZはC3(1組はC3)、負けず、
や授業・補習・Classiもフル活用して、是非3年4月しましょう。高校生の学力は学習時間に比例してください。努力はあなたを裏切りません、結果は
たくさんほめてくれると皆さんのスライドを
もっと頑張れる!! の応援してくれる方から

**2 今日の皆さんの集会の態度はと
これから応援してもらえますよ**

必要とこころメモは取れましたが、自分のこと
ができませんでした。1年前のちがうな今頃、集会
呈したことがありますが、覚えてますか? 「
自分の態度や姿勢を直すことができるように
22Hは既に95%
本当に「前向き」い
どの姿勢、態度でも
また、Bさんの中でも
がいます。さてあ

3 3年生の学期を迎

高校生活も気が付けば折り返し点を過ぎ、次
迎えています。そこで、今度、自分の進路に
自分を分析し、適性やセンスがあるか、努力シ
ミュレーションしてみてください。皆さんにびたり
自分ほ...! なんていう人は一人もいません。より

2年・普通科通信 No.3
生徒と保護者向け

10/10(火)~13(金) 10/14(土) 10/20(金)21(土) 10/26(木)
第3回定期試験 土曜補習 文化祭 陸上競技大会

10/28(土) 実力判定テスト(記述式) 11/1(水) 学校公開ワーク

10月3日(火) GT成績分析報告会がありました

9月9日(土)に2年2回基礎力診断テストが実施され、10月2日に結果が返ってきました。まず、当日に
完全の準備をした状態で受験できたか思い出してください。来年度、進学や就職の試験を受ける
ことになり、試験日はたった1日、その日しりあせません。進んで、穴埋めはそのまま合格という
結果になり、その日のベストの状態で見つかる自分作りを意識してください。

基礎力診断テストの結果

	4月・9月	4月・9月	22H	22H	とんぱん?	現在の状況と今後の目標
Aゾーン	0	1	0	0	4	通信NO.1で伸ばした1つの目標 をすてに達成!! しました。それは、 Bゾーン
Bゾーン	2	4	1	5	4	Aゾーンの数を増やすこと
Cゾーン	1	13	1	14	4	22Hと22Hの合計で、3人→10人 になり、皆さんの頑張りが実果
Dゾーン	1	1	1	1	1	

あと1つの目標は「志望進路を実現するために、
Dゾーンの数を0にすること」です。Dゾーンは全部で
6つのゾーンに分かれていて、D1からD3まであります。
今回の模試で、D3・D3が0人になりました。4月に
Dゾーンにいた人は、12名がCゾーン以上に上昇しています。5か月の学習の成果がしっかりと見えます。
今後、更なる成績向上を目指し、一緒に頑張っていきます。

国・英の全てで成績UPが見られるのは
全国的にも珍しい事を素晴らしいです!!
「今年度の2年生は違う!」と言わせましょう。

P D C A をうまくまわすために

- 「学びの基礎診断」対応版のアセスメントを一年に複数回実施する意図→アセスメントの度に学校の状況を確認し、授業や生徒指導など様々な面を軌道修正できる。
- 誰がP D C Aを回すのか→「生徒←教員←管理職←保護者」であり、誰か一人が担当して回すものではないし、どこか一か所だけで回すものでもない。それぞれの努力・工夫が必要だが、教員間の共通理解は必須。



石川県では「若手教員早期育成プログラム」で教員の資質能力向上に着手

若手教員早期育成プログラムの様子



学校設定目標を達成するために、一人一人の教員の資質能力の育成・向上は重要。

石川県では、学びの場としての「箱」を提供し、このプログラムでどのような事例・内容を扱うかについては各校の裁量に任せてくれている。

現場がフレキシブルに運用できるような配慮がなされていることにより、実践的かつ実効性を伴う議論ができる。



〈Self management〉

機能している部分は？

あの人は何が得意？

情報は透明化されてる？

そもそも目標は何だった？

〈管理職による
コンセンサス〉



〈Evolutionary purpose〉

欠如部分の立ち上げ

停滞部分の立て直し

機能部分の促進

適材適所であること
↓
教員の主体性・能力発揮
不安要素・弱点の補強

〈Wholeness〉